

令和7年 第3回五ヶ瀬町議会定例会 一般質問

期日：令和7年9月4日（木）午前10時～

場所：議場

通告 番号	議員名	・質問事項（執行部答弁書 要/不要）
1	小笠原 将太郎	・五ヶ瀬ハイランドスキー場に対する補助金の効果について（要） ・町内の中古住宅の購入について（要） ・移住者の増加対策について（要）
2	矢野 宏	・本町における生活保護制度の現状と今後の取り組みについて（要）

一 般 質 問

順	質問者	質問事項	質問の要旨	質問相手
1	小笠原 将太郎 (議席番号：5)	1 五ヶ瀬ハイランドスキー場に対する補助金の効果について	町の重要な第三セクター、五ヶ瀬ハイランドスキー場は、自然環境の変化や利用者の減少などに伴い厳しい状況である。その経営は町からの補助金により成り立っているのが現状だ。少しでも多くの方に来ていただくために重要になるのが営業、宣伝の集客活動である。南ちゃんシリーズの宣伝は話題となり、ある程度の効果は上げていると思われる。しかし、補助金に頼らずに単独で収益が上げられるようするには、もっと工夫と努力が必要だと思われる。 次の3点について町長の考えを伺う。 1 各補助金ごとの使用目的と効果について 2 営業を続ける限り補助金は投入していくのか。 3 第三セクターに補助金を投入することにより、インフラ整備や住民サービス等に弊害が発生すると思われるが、町長の考えは。	町長
		2 町内の中古住宅の購入について	移住定住者などを含め、人口減少にブレーキをかけるために住宅が必要であることは、私も以前からお伝えしており、町長も住宅の増加に取り組まれている。 また、空き家も重要な活用資源であり、実際に私も空き家を購入し移住した。町内には多くの空き家があり、国も利活用を推進している。 次の2点について町長に伺う。 1 町内にある空き家を今後町が購入する予定はあるのか。 2 五ヶ瀬町空き家等対策計画があるが、外部への発信はどのように行っているのか。	町長

		3 移住者の増加対策について	人口減少は日本全体の社会問題であり、その要因は多岐にわたる。五ヶ瀬町もその大きな奔流に飲み込まれ流されているのが現状である。この状況を少しでも改善し、素晴らしく美しい五ヶ瀬町を存続させるためには、移住者（引っ越してくる人）を増やさなければならない。次の3点は五ヶ瀬に住もうと思うきっかけになると思うが、町長の考えを伺う。 1 移住者を紹介した人へ謝礼を支給してはどうか。 2 移住者のニーズに応じ、ニーズに特化した住宅を建設する考えはないか。 3 移住者募集の活動として、50km 圏内の企業で働く人たち向けの住宅建設、また通勤交通費の補助を行ってはどうか。	町長

一 般 質 問

順	質問者	質問事項	質問の要旨	質問相手
2	矢野 宏 (議席番号：3)	1 本町における生活保護制度の現状と取り組みについて	日本の生活保護制度は、国の法律に基づいて市町村が運営していることは理解しているうえで、本町においても、1950年に施行された新生活保護制度に基づいて、その当時から制度が運用されていたと考えられる。 この制度は、住民の最低限度の生活を保障するもので、本町の福祉を考える上で重要なセーフティネットと考える。特に本町では、今後高齢化が進む中で、物価や医療費の高騰等の要因による生活困窮者が増加することも懸念される。 今後の町民の生活を保障するにおいて、生活保護制度の適正な運用と併せ、受給者の自立に向けた支援は不可欠な課題であると考ええる。 本町における生活保護制度の現状と今後の取り組みについて伺う。 1 生活保護の受給状況について ① 直近3年間の推移及び世帯数、保護率、高齢者、障害者が占める割合について ② 現況について町はどのように認識しているか ③ 町の財政負担の状況について 2 生活保護受給に至る主な要因の実態把握について 3 就労が可能な受給者への支援策や、生活困窮を未然に防ぐための見守りや相談体制について 4 制度の適切な運用のための不正受給対策と対応策について	町長